

サビエル生誕五百年



111

ビートル初の女性一等航海士、吉野さんと

見せなかつた妻が、退院してからはよく涙を流す。生活の場に帰つて、改めて思い通りに手足が動かないことへの苦しみと悲しみを痛感しているからだろう。

普通、退院したら病院してからが大変だ。

最初は妻の涙を十二分に理解していたつもりだが、何回も何回も涙されると、こつちだけ大変なのだと声を荒らげたい気持ちになら。

やさしく看護する良い夫という仮面をつけている。

妻の涙を見ながら、女性航海士の話がうまくな気がした。書くまでもうと思つた。書くまでもうと思つた。書くまでもうと思つた。

明子さんは彼を十年以上も支えているとテレビで語っていた。私たちの戦いはまだ半年にもならない。これも神の計らいと受け止め、前向きに、ともにがんばろうと思う。

妻の涙を見ながら、女性航海士の話がうまくな気がした。書くまでもうと思つた。書くまでもうと思つた。書くまでもうと思つた。

(元山口放送取締役ラジオ局長)



トルコ十五日間の旅で親しくなつた友から誘いを受け、わずか三日間ではあつたが韓国を旅した。

往復に利用したのは船ビートルだったが、事前にビートルには山口県出身で、国際航路の高速船で初めての女性一等航海士がいることを知った。

出発前にインターねットで調べてみると、その女性、吉野浩子さんは大島商船高専卒業して船に関係のある

船といえど、ほとんどが男の職場。そんな環境の中で、目標に向かって頑張る若き女性を巡礼記でも紹介しようと考へ、乗船した時に一緒に写真を撮つて来たのは妻である。

妻が合うと、立つたまま泣き始めた。私も入院中は一度も涙を



係留中のビートル

人間の目は富めるもの、力あるものに価値を見る。

島渚氏は、妻とは比較にならないほどひどいのに、妻で女優の小山明子さんは彼を十年以上も支えているとテレビで語っていた。

神の目はそうではない。イエスは小さいもの、弱いもののために来られた。

本来、人間は誰もが弱く微々たる存在だ。巡礼とはそれに気づく道であり、弱き者、小さき者への視点を大切にしてこそ巡礼の道なのだと思った。